

平成29年度

運営に関する計画  
最終評価

大阪市立今福小学校

(平成30年3月)

## 1 学校運営の中期目標

## 現状と課題

## 1. 道徳心・社会性について

規範意識や思いやり・情操面を問う本校児童アンケートでは平成25年度と比べ平成28年度では改善点が多くみられた。生活指導において、1年を通して系統的に週目標を設定し指導してきた効果の表れと考えられる。しかし、高学年での「きまりを守る」ことの肯定的な回答は70%を切る状況である。集団登校や縦割り班など、異学年で活動することを多く取り入れることで、児童同士で規律を高めあえるようにしたい。

いじめの認知は、年3回の児童アンケート調査や教員による日常の児童観察、毎月の校内委員会での情報共有および指導方法の意見交換を通して早期発見早期解決に取り組んできた。アンケートでの認知件数は件あるが、その全てに指導を入れ解決してきている。しかし、本校高学年の情報端末使用時間の多さとともに、中学年以上での情報端末機器においてのSNS使用でのトラブルは後を絶たない。平成27年度からは、ゲストティーチャーを招へいし正しい使用について学習を進めている。

防災減災については、防災対策マニュアルの作成・活用を進めている。また、隔年で内容を変えながら地域・区役所と連携した防災教育に取り組んでいる。本校児童アンケートで「自分の命を守る」観点を問う肯定的な回答は90%近い回答があるが、これまで以上に「安心・安全」のための学習が必要である。

「学校安心安全ルール」は、平成28年度に保護者配付をした。学校として本ルールを適用する以前から必要に応じて職員室等での別室指導を行っている。

## 2. 学力・体力について

全国学力・学習状況調査において国語・算数の平均正答率が70%を超える児童を増やすことをめざし、平成25年度から基礎的な学習の徹底を図る週2回の「今福漢字検定」や5年生において習熟度別少人数指導を進めた形で基礎学力を反復練習を通して培う「月6タイム」、平成27年度からは4年生を対象とした「水5タイム」に取り組んだ。その結果、平成28年度全国学力・学習状況調査の結果は、国語において平成25年度から20ポイント以上の改善を図ることができた。しかし、算数は、平成25年度に比べ10ポイント程度下回る結果となった。また、家庭学習については、児童質問紙の回答は全国や市の肯定的な回答を大きく下回る。本校保護者アンケート調査から肯定的な回答が80%程度と平成25年度調査と大きな変化はなくおおむね回答状況は良いと考えられるが、児童質問紙での児童とのとらえ方の差が大きい。

大阪市学力経年調査でも、3年生から6年生で正答率がほとんどの学年で4教科とも市平均を下回った。

体力については、全国体力・運動能力、運動習慣調査の結果において平成25年に比べ平成28年度は大きな改善はできていない。平成28年度からは、各学期で体力測定を実施し、その結果の積み重ねにより、児童の意識改善に取り組みつつあるが、本校児童の特徴を見極め指導方法の改善を図る必要がある。また、体力向上については「休み時間に外でよく遊ぶ」児童を増やすために児童会運動委員会が体育倉庫用具貸し出しや担任が外に出る時間を工面することで、肯定的な回答が前年度から10ポイント上がった。

## 中期目標

### 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 平成33年度の全国学力・学習状況調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。  
(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)
- 平成33年度の全国学力・学習状況調査における「自分にはよいところがある」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を平成28年度より5%向上させる。  
(施策2 道徳心・社会性の育成)
- 平成29年度～32年度の年度末のいじめアンケートにおいて、学校で認知しているいじめについて、解消に向けて対応している割合を毎年100%にする。  
(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)
- 平成32年度の校内児童アンケートにおける「学校や・家庭、地域などで地震や火災事件などが起こった時、どのように行動したらよいか知っていますか」の「知っている」とする肯定的な回答の割合を95%以上にする。  
(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)
- 平成32年度の保護者アンケートで、「子どもは楽しく学校に通っている」といった内容の項目の肯定的な回答の割合を90%以上にする。  
(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)

### 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 平成33年度の全国学力・学習状況調査における国語・算数の知識に関する問題の正答数が7割以上の児童を平成28年度より5%以上向上させる。  
(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)
- 平成32年度の大阪市学力経年調査における標準化得点を平成28年度より向上させる。  
(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)
- 平成33年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について肯定的な回答の割合を平成28年度より向上させる。  
(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)
- 平成33年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における合計得点を平成28年度より3ポイント向上させる。  
(施策7 健康や体力を保持増進させる力の育成)
- 平成32年度の校内児童アンケートにおいて「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」といった項目について肯定的な回答の割合を90%以上にする。  
(施策7 健康や体力を保持増進させる力の育成)

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- 平成29年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を100%にする。
- 平成29年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。
- 平成29年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- 平成29年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

#### 学校園の年度目標

- 平成29年度末のいじめアンケートにおいて、学校で認知しているいじめについて、解消に向けて対応している割合を毎年100%にする。
- 平成29年度の校内児童アンケートにおける「学校のきまりを守っていますか」の肯定的な回答の割合を80%以上にする。
- 平成29年度の校内児童アンケートにおける「学校や・家庭、地域などで地震や火災事件などが起こった時、どのように行動したらよいか知っていますか」の「知っている」とする肯定的な回答の割合を95%以上にする。
- 平成29年度末の保護者アンケートで、「子どもは楽しく学校に通っている」といった内容の項目の肯定的な回答の割合を90%以上にする。
- 平成29年度小学校学力経年調査における児童質問紙において「自分にはよいところがある」といった項目の肯定的な回答を80%以上にする。

### 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- 平成29年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度より向上させる。
- 平成29年度の小学校学力経年調査における正答率4割以下の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3%減少させる。
- 平成29年度の小学校学力経年調査における正答率6割以上の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3%増加させる。
- 平成29年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広めたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。
- 平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である反復横跳びの平均の記録を、前年度より1ポイント向上させる。

#### 学校園の年度目標

- 平成29年度市学力経年調査において、各学年の国語・算数の正答率を平成28年度実施分より3ポイント以上向上させる。
- 平成29年度市学力経年調査において、国語・算数の無回答率を平成28年度実施分より下げる。
- 平成29年度市学力経年調査において、「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目の肯定的な回答を各学年平成28年度実施分より1ポイント以上向上させる。
- 平成29年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における合計得点を平成28年度より向上させる。
- 平成29年度の校内児童アンケートにおいて「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」といった項目について肯定的な回答の割合を90%以上にする。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

#### 中期目標について

- 平成33年度の全国学力・学習状況調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。  
市学力経年より 83.1%
- 平成33年度の全国学力・学習状況調査における「自分にはよいところがある」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を平成28年度より5%向上させる。  
市学力経年より 28年 54.1%→29年 82.5% (+28.4)
- 平成29年度～32年度の年度末のいじめアンケートにおいて、学校で認知しているいじめについて、解消に向けて対応している割合を毎年100%にする。  
いじめアンケートにて 100%
- 平成32年度の校内児童アンケートにおける「学校や・家庭、地域などで地震や火災事件などが起こった時、どのように行動したらよいか知っていますか」の「知っている」とする肯定的な回答の割合を95%以上にする。  
校内児童アンケート 29年 89.4%
- 平成32年度の保護者アンケートで、「子どもは楽しく学校に通っている」といった内容の項目の肯定的な回答の割合を90%以上にする。  
校内保護者アンケート（お子さんは学校生活を楽しんでいますか）29年 96.9%

## 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 平成33年度の全国学力・学習状況調査における国語・算数の知識に関する問題の正答数が7割以上の児童を平成28年度より5%以上向上させる。  
全国学力 28年国語 A58.6%→29年国語 A58.6% (±0)  
28年算数 A48.2%→29年算数 A65.5% (+17.3)  
28年算数 B 5.2%→29年算数 B17.2% (+12)
- 平成32年度の大阪市学力経年調査における標準化得点を平成28年度より向上させる。  
市学力経年 28年標準化得点 94.6→29年標準化得点 90.6 (-4)
- 平成33年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について肯定的な回答の割合を平成28年度より向上させる。  
全国学力 28年 28.5%→29年 3.4% (-25.1)
- 平成33年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における合計得点を平成28年度より3ポイント向上させる。  
全国体力男子 28年 49.43→29年 51.67 (+2.24)  
女子 28年 57.47→29年 50.42 (-7.05)
- 平成32年度の校内児童アンケートにおいて「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」といった項目について肯定的な回答の割合を90%以上にする。  
校内児童アンケート 29年 85.8%

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- 平成29年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を100%にする。  
いじめアンケート 29年 100%
- 平成29年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。  
市学力経年 29年 83.1%  
校内児童アンケート 29年 85.8%
- 平成29年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。  
28年 0件→29年 0件
- 平成29年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。  
28年 0件→29年 0件

## 学校園の年度目標

- 平成29年度末のいじめアンケートにおいて、学校で認知しているいじめについて、解消に向けて対応している割合を毎年100%にする。

いじめアンケート 29年 100%

- 平成29年度の校内児童アンケートにおける「学校のきまりを守っていますか」の肯定的な回答の割合を80%以上にする。

校内児童アンケート 29年 85.8%

- 平成29年度の校内児童アンケートにおける「学校や・家庭、地域などで地震や火災事件などが起こった時、どのように行動したらよいか知っていますか」の「知っている」とする肯定的な回答の割合を95%以上にする。

校内児童アンケート 29年 89.4%

- 平成29年度末の保護者アンケートで、「子どもは楽しく学校に通っている」といった内容の項目の肯定的な回答の割合を90%以上にする。

校内保護者アンケート（お子さんは学校生活を楽しんでいますか） 29年 96.9%

- 平成29年度小学校学力経年調査における児童質問紙において「自分にはよいところがある」といった項目の肯定的な回答を80%以上にする。

市学力経年より 28年 54.1%→29年 82.5%（+28.4）

## 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

### 全市共通目標（小・中学校）

- 平成29年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度より向上させる。

市学力経年 28年標準化得点 94.6→29年標準化得点 90.6（-4）

- 平成29年度の小学校学力経年調査における正答率4割以下の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3%減少させる。

市学力経年 4年 28年 17%→29年 14%（-3）

5年 28年 20%→29年 34%（+14）

6年 28年 20%→29年 13%（-7）

- 平成29年度の小学校学力経年調査における正答率6割以上の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3%増加させる。

市学力経年 4年 28年 82%→29年 85%（±0）

5年 28年 82%→29年 64%（-18）

6年 28年 78%→29年 85%（+7）

- 平成29年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広めたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。

市学力経年 28年 60.8→29年 62.8（+2）

- 平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である反復横跳びの平均の記録を、前年度より1ポイント向上させる。

全国体力男子 28年 36.57→29年 41.69

女子 28年 40.13→29年 37.58

#### 学校園の年度目標

- 平成29年度市学力経年調査において、各学年の国語・算数の正答率を平成28年度実施分より3ポイント以上向上させる。

市学力経年 28年 3年国語 65→29年 74

算数 75→29年 78

4年国語 73→29年 66

算数 63→29年 67

5年国語 68→29年 57

算数 80→29年 60

6年国語 78→29年 75

算数 74→29年 71

- 平成29年度市学力経年調査において、国語・算数の無回答率を平成28年度実施分より下げる。

市学力経年 28年 3年国語 4% →29年 6.3%

算数 5.3%→29年 3.4%

4年国語 5.5%→29年 4.7%

算数 1.1%→29年 0.9%

5年国語 6.5%→29年 14.6%

算数 5.6%→29年 2.7%

6年国語 5.3%→29年 4.7%

算数 3.3%→29年 3.5%

- 平成29年度市学力経年調査において、「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目の肯定的な回答を各学年平成28年度実施分より1ポイント以上向上させる。

市学力経年 28年 23.2%→29年 30.7%

- 平成29年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における合計得点を平成28年度より向上させる。

全国体力 28年 106.9→29年 102.09 (男女合計)

- 平成29年度の校内児童アンケートにおいて「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」といった項目について肯定的な回答の割合を90%以上にする。

校内児童アンケート 29年 85.8%

## 大阪市立今福小学校 平成 29 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</b></p> <p><b>全市共通目標 (小・中学校)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平成 29 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度より向上させる。</li> <li>○ 平成 29 年度の小学校学力経年調査における正答率 4 割以下の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 3% 減少させる。</li> <li>○ 平成 29 年度の小学校学力経年調査における正答率 6 割以上の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 3% 増加させる。</li> <li>○ 平成 29 年度の小学校学力経年調査 (校内調査) における「学級の友達との間で話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広めたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。</li> <li>○ 平成 29 年度全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である反復横跳びの平均の記録を、前年度より 1 ポイント向上させる。</li> </ul> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平成 29 年度市学力経年調査において、各学年の国語・算数の正答率を平成 28 年度実施分より 3 ポイント以上向上させる。</li> <li>○ 平成 29 年度市学力経年調査において、国語・算数の無回答率を平成 28 年度実施分より下げる。</li> <li>○ 平成 29 年度市学力経年調査において、「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目の肯定的な回答を各学年平成 28 年度実施分より 1 ポイント以上向上させる。</li> <li>○ 平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における合計得点を平成 28 年度より向上させる。</li> <li>○ 平成 29 年度の校内児童アンケートにおいて「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」といった項目について肯定的な回答の割合を 90% 以上にする。</li> </ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 学力向上に向けて、指導方法や取組内容の充実を図る。(マネジメント改革関連)</p> <p>指標 すべての教員が関わった形で、教員は年 1 回以上の授業研究を実施する。</p>	B
<p>取組内容②【施策 5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 児童の体験学習活動を進め、学習活動が豊かになるように工夫する。(マネジメント改革関連)</p> <p>指標 学年の学習内容に応じて年間 2 回以上の体験学習を実施する。</p>	B

<p>取組内容③【施策5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 3年生以上は国語科算数科における習熟度別クラス編成時にレディネステストや児童アンケートを実施し、適正なクラス編成を行う。(マネジメント改革関連)</p>	B
<p>指標 市学力経年調査において、市平均点を上回る児童の割合を5割以上とする。</p>	
<p>取組内容④【施策4、国際社会において生き抜く力の育成】 1～4年生においても、アクティブラーニングを活用した英語活動を進める。(グローバル改革関連)</p>	A
<p>指標 1・2年生は年間10時間、3・4年生は年間15時間程度の英語活動を実施する。</p>	
<p>取組内容⑤【施策5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 読書週間の定着を図るため、読書量を調べるなど、意欲的に取り組めるようにする。(マネジメント改革関連)</p>	B
<p>指標 児童アンケートで、「進んで本を読んでいますか」の児童の割合を8割以上にする。</p>	
<p>取組内容⑥【施策5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 基本的な話型を身につけ、発表の際に活用できるようにする。(マネジメント改革関連)</p>	B
<p>指標 「話し合い活動を通して自分の考えを深めたり、広めたりすることができていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。</p>	
<p>取組内容⑦【施策5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 タブレット端末や視聴覚機器を活用し、児童の学力を伸ばす教材の開発を進める。(マネジメント改革関連)</p>	B
<p>指標 学習活動で、電子黒板やCD、タブレット端末などを活用する授業を月に2回以上実施する。</p>	
<p>取組内容⑧【施策6、健康や体力を保持増進する力の育成】 体育的な用具を充実させ、外遊びを意欲的にしようとする環境を整備し、児童の体力向上に努める。(マネジメント改革関連)</p>	A
<p>指標 学年に応じた外遊びや、体力向上につながる運動を年間通して行う。 大縄遊びを学期に1回実施する。</p>	
<p>取組内容⑨【施策6、健康や体力を保持増進する力の育成】 50m走と幅跳びについて児童一人一人に目標を設定させ、走・跳の運動(あそび)の授業を計画的に行う。 かけ足の記録をとり、持久力の向上に努める。 準備体操としてラジオ体操を実施する。 他校の児童との体育的行事を通して交流し、意欲の喚起と親善・友好を深める。(マネジメント改革関連)</p>	B
<p>指標 体育科授業の年間計画に位置付け、学期に1回記録をとり意欲を高める。</p>	
<p>取組内容⑩【施策6、健康や体力を保持増進する力の育成】 保健指導や清潔週間等を実施し、児童の健康な生活習慣の確立を図る。 保健だよりや学校保健委員会を通じて保護者への啓発を図る。(カリキュラム改革関連)</p>	A
<p>指標 清潔週間を隔月に1回行う。 保健だよりを毎月発行し、配付時に内容に基づいた保健指導を行う。 学校保健委員会を年に1回行い、児童の健康課題について協議し、健康づくりを推進する。</p>	
<p>取組内容⑪【施策6、健康や体力を保持増進する力の育成】 日々の給食時間の指導や、栄養指導を行うことで、食への関心を高め、食事をしっかりとる</p>	A

子どもを育てる。 (カリキュラム改革関連)	
指標 年2回以上の栄養指導を行う。 「給食だより」「食のおたより」を活用した給食指導を、毎月行う。 児童は給食を楽しみにしており、ほぼ毎日、残食率が0に近く、目標が達成されている。 本年度も引き続き計画的・継続的に食育に関わる指導を行う。	
取組内容⑩【施策6、健康や体力の保持増進する力の育成】 他校の児童と体育的行事を通して交流し、運動への意欲の喚起と親善、友好を深める。 (マネジメント改革関連)	B
指標 スポーツ交歓会に参加し、他校の児童と交流を図る。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ol style="list-style-type: none"> <li>① 全教員が研究授業や公開授業を行うことで、授業の工夫の仕方や進め方の向上に反映できた。</li> <li>② 体験学習は充実しており、子どもたちの意欲へとつながった。</li> <li>③ レディネステスト等により、一人一人の理解度の把握に努めた。</li> <li>④ C-NETや地域のネイティブスピーカーの活用をし、英語の学習を充実させた。</li> <li>⑤ 図書関係の掲示物や図書館の充実が子どもたちの読書活動への意欲づけになった。また、図書館補助員さんの読み聞かせや図書委員会の読み聞かせ、お話会もよかった。</li> <li>⑥ 話型の指導はあまり進んでいないが、話型は、発表の苦手な子どもへのアプローチの第一段階として必要だと考える。</li> <li>⑦ デジタル教科書が多く活用されるようになった。また、タブレット、視聴覚機器を学習の中に取り入れることで子どもの学習意欲が出た。</li> <li>⑧ 体を動かすことが好きな子どもは多く、外遊びをしている子どもが多い。</li> <li>⑨ 記録をとり、目標を持てるように取り組めた。また、ラジオ体操の定着を図った。</li> <li>⑩ 清潔週間の効果があり、ほとんどの児童は、ハンカチやはなかみ等用意し、清潔への意識をもつようになってきている。</li> <li>⑪ 残食が減り、日々の給食指導により食への関心は高い。</li> <li>⑫ スポーツ交歓会に参加し、単学級では得られない経験ができた。</li> </ol>	
次年度への改善点	
<ol style="list-style-type: none"> <li>① 公開授業や研究授業のあり方について           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参観者は、できるだけ参観できるようにし、研究授業は全教員が参観した方がよい。</li> <li>・ 指導案の検討の仕方を工夫する。</li> </ul> </li> <li>③ 習熟度別学習のあり方の検討が必要。</li> <li>④ 英語モジュールがきちんと取り組めるように指導体制を整える。</li> <li>⑤ 図書管理の必要がある。</li> <li>⑥ 話型の取り組みでは、さらに指導を進めていけたらよい。また、話型は年度初めに全学級そろえ、児童への指導を継続していく。</li> <li>⑦ ICT機器の使用法、メンテナンス、トラブル発生時の対処法の共通理解が必要である。ICTについて児童向けの取り組みを行う。また、タブレットや視聴覚機器を活用するための研修やプログラミング教育の研修が必要である。</li> <li>⑨ スポーツテストの記録については、全ては難しいので種目を全校で決めて記録をとり続けるとよいと思う。</li> <li>⑩ 歯みがきについては来年度も継続して行う必要がある。</li> </ol>	

## 大阪市立今福小学校 平成 29 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</b></p> <p><b>全市共通目標（小・中学校）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平成 29 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 100%にする。</li> <li>○ 平成 29 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 80%以上にする。</li> <li>○ 平成 29 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。</li> <li>○ 平成 29 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。</li> </ul> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平成 29 年度末のいじめアンケートにおいて、学校で認知しているいじめについて、解消に向けて対応している割合を毎年 100%にする。</li> <li>○ 平成 29 年度の校内児童アンケートにおける「学校のきまりを守っていますか」の肯定的な回答の割合を 80%以上にする。</li> <li>○ 平成 29 年度の校内児童アンケートにおける「学校や・家庭、地域などで地震や火災事件などが起こった時、どのように行動したらよいか知っていますか」の「知っている」とする肯定的な回答の割合を 95%以上にする。</li> <li>○ 平成 29 年度末の保護者アンケートで、「子どもは楽しく学校に通っている」といった内容の項目の肯定的な回答の割合を 90%以上にする。</li> <li>○ 平成 29 年度小学校学力経年調査における児童質問紙において「自分にはよいところがある」といった項目の肯定的な回答を 80%以上にする。</li> </ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 3、道徳心・社会性の育成】</p> <p>進んで元気にあいさつできるようにする。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>指標 「あいさつ週間」を毎月実施する。</p>	B
<p>取組内容②【施策 2、安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>学校のきまりを守ることにについて、生活目標を毎週設定する。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>指標 廊下・階段の歩行指導を徹底する。</p>	B
<p>取組内容③【施策 3、道徳心・社会性】</p> <p>縦割り班編成により、活動の活性化を図り、異学年交流を深める。 (マネジメント改革関連)</p> <p>指標 週に 1 回縦割り班活動に取り組む。</p>	B

<p>取組内容④【施策2、安全で安心できる学校、教育環境の実現】 年間指導計画に沿って防災・防犯に関する授業を実施する。「警備及び防災・防犯の計画」「安全対策マニュアル」に基づき、災害時に備えた訓練を実施する。（カリキュラム改革関連）</p>	B
<p>指標 各学年、学期に1時間の防災・防犯教育の授業を実施し、通常の避難訓練を年2回実施するとともに、保護者・地域との合同避難訓練を年1回働きかける。</p>	
<p>取組内容⑤【施策2、安全で安心できる学校、教育環境の実現】 ゲストティーチャーを招いたり、校外の施設を見学したりするなど体験活動を充実させる。（カリキュラム改革関連）</p>	B
<p>指標 ゲストティーチャーを招いたり、校外の施設を見学したりするなど体験活動を全学年で1回以上実施する。</p>	
<p>取組内容⑥【施策2、安全で安心できる学校、教育環境の実現】 全校や各学年で、自尊感情を高められるような取り組みをする。（マネジメント改革関連）</p>	B
<p>指標 月1回の校内委員会を実施し、共通理解を図り対策を打ち出す。</p>	
<p>取組内容⑦【施策2、安全で安心できる学校、教育環境の実現】 人権教育・道徳教育の年間指導計画を作成し、児童の実態把握に努め、講師を招いた人権教育研修を年1回行う。（カリキュラム改革関連）</p>	B
<p>指標 月1回の校内委員会において児童理解に努め、対策を講じる。また、講師を招いた人権教育研修を実施する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>① 毎月実施するあいさつ週間等の取り組みで、あいさつができる児童が増えてきた。 ② 廊下・階段の歩行指導及び上靴・下靴の使用について指導の徹底を図る必要がある。 ③ 毎週、異学年集団で協力できるように集会活動が行われていた。 ④ いろいろな状況を予想し、それに対して有効な避難の方法を考えながら訓練に活かすことができた。 ⑤ 体験学習やゲストティーチャーを招いての学習が充実していた。 ⑥ 校内委員会で子どもや家庭の実態を共有し、指導や支援に活かすことができた。 ⑦ 児童の実態に即し、計画的かつ柔軟に取り組みが進められている。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>① 普段から進んであいさつできるように、あいさつの大切さを知らせる取り組みが必要である。 ② ・廊下・階段の歩行や、上靴・下靴の使用については、引き続き指導していく。 ・清掃指導について、学校全体で取り組む。 ③ 児童会担当の役割分担をする。 ④ 不審者対応避難訓練を2回（授業時間・休憩時間）実施する。 ⑤ ゲストティーチャーの活用には、学校の歴史にかかわる方を招く。 ⑥ いじめ・差別については、解消できているものの、再発防止に努める取り組みが必要である。また、それに加え、児童の自己肯定感を育む取り組みが必要である。 ⑦ 外部から講師を招いての人権教育研修を実施する。</p>	